

高知県大学生の 地域活動調査



依光晃一郎後援会

目 次

1. 調査の目的	2
2. 調査の方法	2
3. 新聞掲載検索と分野別整理	4
4. 事例の抽出	15
5. まとめ	55

1. 調査の目的

高知県の中山間地域の疲弊が深刻化する中、高知県内の大学及び短期大学等の地域貢献活動に対するニーズが高まっている。

この調査は、高知県内で行われた地域貢献に関する地域支援事業を、高知新聞の記事（データベース）をもとに抽出し、実績内容や事例等を整理するものである。

2. 調査の方法

1) データベース調査

- ・高知新聞社のデータベースを「大学」「学生」「市町村名」で検索する。
- ・検索期間：2008年1月1日から2013年2月28日まで
- ・記事データの入手（ただし、肖像権に関し、承諾が必要な写真は使用しない）

2) 調査内容の整理等

- ・記事内容等を把握し、地域支援事業を、地域づくり、商工観光、教育文化、健康福祉、防災安全、技術工学、建築土木、自然環境、その他に分類する。
- ・分類した各項目に対して、市町村名、大学名、実施内容（記事の見出し）、掲載日の順でまとめ、2008年以降における高知県内の大学及び短期大学の地域支援事業として整理する。（同一内容の関連記事も掲載）
- ・抽出記事より、地域支援事業の事例をピックアップし、報告書に整理する。

3) 検索結果

- ・抽出大学：高知大学、高知女子大学、高知県立大学、高知工科大学、県立高知短期大学、高知学園短期大学
- ・検索記事：165件（事例記事：38件）

高知新聞社のデータベース

「大学」「学生」「市町村名」で見出し検索

県内大学の地域支援事業記事を抽出

大学の地域支援事業を活動内容別に整理

- ① 地域づくり
- ② 商工観光
- ③ 教育文化
- ④ 健康福祉
- ⑤ 防災安全
- ⑥ 科学技術
- ⑦ 建築土木
- ⑧ 自然環境
- ⑨ その他



地域支援事業の事例(掲載記事)の抽出

3. 新聞掲載検索と分野別整理

1) 地域づくり

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知市	高知大学	旭開市 フリマで“復活” 高知大生が企画 31日に旭駅前 15店軒先借りイベント	2008.5.14 朝刊
	高知大学	開市ヒントにフリマ開催 高知大生と商店街店主ら 露店、ライブ“売り物”多彩 高知市旭地区	2008.6.8 朝刊
	高知大学	活気ある旭地区に 住民主体で初の祭り 高知大生に刺激受け	2008.9.1. 朝刊
	高知大学	地域と若者結ぼう 学生らの就業体験仲介 高知大名誉教授ら NPO法人発足 あす記念シンポ	2009.5.9. 朝刊
	高知大学	日曜市に高知大生の店 年末まで月1回 地場産品を販売	2009.8.10 朝刊
	高知大学	日曜市活性化 若者と考えよう 22日 高知市でシンポ	2010.2.18 朝刊
	高知大学	日曜市 若い力で元気に 学生らシンポで活性化案 高知市	2010.2.23 朝刊
	高知大学	子どもの学び 地域で支え 診療所に無料塾 大学生らが指導「解ける喜び味わって」 高知市潮江地区	2010.8.15 朝刊
	高知大学	日曜市特製弁当いかが 高知大生発案 旬の食材ふんだんに	2011.3.7 朝刊
	高知大学	日曜市もっと活性化を 高知大生ら企画提案 高知市	2012.8.30 朝刊
南国市	高知大学	高知大生 農政局幹部と懇談 農業の魅力伝える政策を 援農活動例など発表	2009.12.7 朝刊
南国市 香南市 香美市	高知大学 高知工科大学	県産振・物部川地域案 園芸産品の生産拡大 22項目 大学生を地域応援団に	2009.2.5 朝刊
安芸市	高知女子大学	高知女子大生 「援農サークル」結成 安芸市での作業奉仕機に 「地域と交流深めたい」	2008.1.25 朝刊
	県立高知短期大学	高知短大生ら大根種まき 安芸市入河内 地域の魅力学ぶ	2009.6.3 朝刊
	県立高知短期大学	丸々?入河内大根 安芸市で高知短大生ら 180本喜びの収穫	2011.1.31 朝刊

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
四万十市	高知大学	高知大生 中山間を体感 四万十市西土佐 住民と草刈り	2010.6.14 朝刊
	高知大学	山里の活性化探る 高知大生が暮らし体験 四万十市西土佐	2011.7.21 朝刊
	高知大学	四万十市西土佐の中組集落 9年ぶり赤ちゃん祝福 高知大生らが企画	2011.9.24 朝刊
	高知大学	「ふわふわ」で地域おこし 外販や交流 住民活発化 四万十市中組地区	2012.5.10 朝刊
	高知大学	高知大生が住民と口屋内活性化探る 四万十市西土佐	2012.5.29 朝刊
	高知大学	「ふわふわ」の活動 映像に 高知大生が制作 四万十市西土佐	2012.9.21 朝刊
香美市	高知大学	マイ鳴子できたよ 繁藤小中 間伐材で手作り 香美市	2008.7.18 朝刊
	高知大学	高知大生ら参加 運動会盛り上げ 香美市の繁藤小中	2008.9.25 朝刊
	高知大学 高知女子大学	高齢集落 何が必要？ 県内大学生 香美市で調査報告 住民と意見交換	2009.9.22 朝刊
	高知県立大学	県大生 地域活性化に汗 香美市の平山地区 石窯製作、運動会も “復活” 住民と交流 成長実感	2012.10.25 朝刊
	高知県立大学	8年ぶり運動会 “復活” 香美市の旧平山小 県大生企画し住民満喫	2012.11.5 朝刊
	高知工科大学	物部の食、文化学ぼう 工科大生と住民情報交換 香美市	2008.12.18 朝刊
	高知工科大学	高知工科大 地域再生の担い手育成 公開講座開始 ビジネスモデル探る	2008.9.28 朝刊
	高知工科大学	地元野菜を食べて 生産者と工科大生 料理などで交流 香美市	2010.1.29 朝刊
	高知工科大学	6次産業化へ連携探る 住民、工科大が研修会 香美市物部町	2012.1.31 朝刊
	高知工科大学	山田の日曜日市に若い力 工科大生がイベント企画 18日 にぎわい創出目指す 香美市	2012.11.15 朝刊
	高知工科大学	山田の日曜日市 久々活況 工科大生 もり立てに一役 香美市	2012.11.20 朝刊

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
香美市	高知工科大学	高齢者とながろう ダンス、歌で交流 工科大生が初企画 香美市	2012.11.29 朝刊
	高知工科大学	工科大生に元気もらった 香美市の高齢者ら 交流の卒業生に感謝状	2013.2.10 朝刊
香南市 四万十町 大豊町	高知大学	高知大生が地域貢献活動 地元食材使い鍋 社会奉仕をPR	2010.12.12 朝刊
大豊町	高知大学	集落の“限界、乗り越えろ 高知大生 泊まり込み調査 大豊町怒田 特産品発掘や焼き畑再現	2009.2.19 朝刊
	高知大学	棚田を彩る 光のアート 大豊町 高知大生ら協力	2012.10.10 朝刊
本山町	高知大学	田んぼアートに挑戦 高知大生と本山町の農家 色づく稲植える	2012.5.21 朝刊
仁淀川町	高知大学 高知県立大学 高知工科大学	棚田で大学生が運動会 活用考えるグループ企画 仁淀川町	2011.11.14 朝刊
	高知大学ほか	大学生 地域の魅力探る ふるさとインターン 若い視点で提言へ 仁淀川町	2010.9.17 朝刊
梶原町	高知大学	残そう ミツマタ畑 高知大生ら紙すき入門 草刈りなど体験 梶原町	2008.11.26 朝刊
四万十町	高知大学	『とさトピ』四万十町で高知大生と児童交流	2012.11.18 朝刊
黒潮町	高知大学	ラッキョウ植え付け最盛 黒潮町 150 農家が栽培 高知大生 体験に汗	2010.9.15 朝刊

2) 商工観光

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知県内	高知女子大学	土佐茶 知名度アップを 高知女子大生消費拡大策 茶摘み体験など提案	2008.11.6 朝刊
	高知女子大学	土佐茶の魅力テーマに講座 高知女子大 来月6日	2010.2.22 朝刊
	高知女子大学	土佐茶 飲もうよ！ 高知女子大生ら商品開発 「茶楽々」 26日発売 渋味さわやか、マイボトルにも	2010.9.19 朝刊

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知県内	高知県立大学	県大の土佐茶いかが 女子学生が商品化第2弾「CHARARA (チャララ)」 限定 1000 個、8日発売 渋み抑えうま味強く	2011.8.4 朝刊
	高知県立大学	土佐茶ブランド化第3弾 県大生 ほうじ茶商品化 津野町産茶葉使用 近く発売 「うま味残り力強さ」	2011.10.7 夕刊
	高知県立大学	土佐茶カクテル いかが 県大生提案 11 種類完成 パーテンドー協が試飲会 高知市	2011.11.3 朝刊
	高知県立大学	香る土佐茶に観光客ら笑顔 高知市で新茶まつり	2012.5.6 朝刊
高知市	高知大学	桂浜パンフ 高知大生で 高知市が協力依頼 若者の目で魅力紹介	2009.10.25 朝刊
	高知大学	桂浜観光 もっと楽しく！ 高知大生マップ製作、配布	2010.4.15 朝刊
	高知大学	コンビニ用 メニュー考案 高知大生弁当が人気 彩り鮮やか 地元食材豊富	2009.2.25 朝刊
	高知大学	カツオ食品デザイン 朝倉第二小(高知市)の5年生 高知大と連携授業	2013.2.20 朝刊
	高知女子大学	商店街でXマスを エスコ企画 新マップも 高知市	2008.12.24 朝刊
	高知女子大学	「美しい街が好きです」 エスコーターズら高知市でパレード	2009.6.8 朝刊
	高知女子大学	街に新しい風吹かせよう 高知女子大生が洋服店 おびさんロード沿い オリジナル 150 着販売	2009.12.25 朝刊
	高知女子大学	高知女子大「エスコーターズ」10 年目 地道にゆるーく活動続ける 街の活性化に一役	2010.9.1 朝刊
	高知女子大学	中心街見守って 10 年 エスコーターズ 記念冊子を配布 高知市	2011.3.28 朝刊
	高知県立大学	歌や仮装でXマス 県大生がイベント 福島支援即売会も 高知市	2012.12.25 朝刊
	高知女子大学 高知工科大学	「カフェのような美容室に」 県内学生が店内デザイン “見せる収納” や床板にこだわり 高知市	2009.9.2 夕刊
	高知工科大学	マネジメント学部支援へ 工科大と県内企業 連携組織	2008.7.15 朝刊

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
南国市	高知大学	食品産業担う人材育て！ 土佐FBC事業が開講 高知大	2008.10.8 朝刊
	高知大学	『議会』 南国市(13日) 加工食品の開発者養成 高知大と連携	2008.3.14 朝刊
南国市 宿毛市	高知大学	さっぱり味 生臭さもなし 高知大「ユズブリ」研究 大手すしチェーン商品化	2013.1.28 夕刊
室戸市	高知大学 高知県立大学 高知工科大学	ひなまつり 大学生が新風 室戸市吉良川町 町並みの魅力発信 あすから スタンプラリーも企画	2012.2.29 朝刊
土佐市	高知女子大学	女子大 土佐市と協定 商品開発やエコバッグ 地域振興へ連携	2008.10.29 朝刊
土佐清水市	高知大学	地域の宝で古里元気に 高知大生 宗田節工場を見学 土佐清水	2009.1.19 朝刊
四万十市 黒潮町	県立高知短期大学	高知短大生 幡多観光 現場で学ぶ 四万十川学遊館など 20人が聞き取り	2008.1.15 朝刊
香美市	高知工科大学	鉛筆削り付き「秦山絵馬」 土佐打刃物PR 工科大生が考案	2012.2.16 朝刊
北川村	高知県立大学	北川村 県大と連携 魅力発掘へ 若い観光客呼び込み！	2012.7.4 朝刊
	高知県立大学	若い観光客呼び込み 北川村 県大と連携 戦略探る 学生の視点で魅力創出へ	2012.7.21 朝刊
	高知県立大学	県大生 北川村の魅力探る ユズ学び住民と交流	2012.10.8 朝刊
	高知県立大学	北川村観光 県大生が提案 女子旅／家族旅／大人の修学旅行 村採用 春にも商品化	2013.1.15 朝刊
大豊町	高知大学	萌えキャラでクルベジPR 高知大生グループが募集 大豊町	2012.3.5 朝刊
	高知大学	大豊町「クルベジ」第2弾 エコ野菜「萌えキャラ」募集 トマトとキュウリ PRに利用	2013.1.23 朝刊
いの町	高知女子大学	卒業制作で土佐和紙バッグ 高知女子大4年生2人 「魅力伝えたい」 流行学びデザイン工夫 いの町	2009.1.10 朝刊
黒潮町	県立高知短期大学	県立短大生 黒潮町の特産品学ぶ すり身料理などに挑戦	2009.1.12 朝刊

3) 教育文化

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知市	高知大学	子どもと触れ合い 高知大生活動発表 高知市	2009.6.3 朝刊
	高知大学	いろんな競技体験しよう 小学1—4年対象に教室 高知大生が指導 来月から	2008.10.28 朝刊
	高知大学	高知大サッカー部 児童ら250人指導 春野球技場	2012.12.2 朝刊
	高知女子大学	土佐の妖怪大集合 女子大生の都市伝説紹介も 県立文学館	2009.3.1 朝刊
	高知女子大学	こどもの図書館を元気に！ 高知女子大生 会員増へ提言 「応援隊」組織、支援へ	2008.7.8 朝刊
	高知女子大学	「養護教諭への一歩に」 高知女子大生が読み聞かせ 高知市三里小	2009.6.3 朝刊
	高知女子大学	巨大絵本作り始まる 高知女子大永国寺キャンパス 親子連れら色塗り 12月にお披露目	2009.8.10 朝刊
	高知女子大学	でっか〜い絵本できた！ 高知女子大生と子どもたち160人 1.8km四方、80ヶ所	2009.12.13 朝刊
安芸市	高知大学	高知大生が焼き物体験 工芸の奥深さ学ぶ 安芸市内原野	2012.7.20 朝刊
四万十市	高知大学	高知大生 多彩な音色で魅了 子ども向け演奏会 四万十市東中筋中	2010.11.3 朝刊
	高知大学	休校小に音楽響く 高知大生楽団が演奏会 四万十市	2012.7.13 朝刊
四万十市 仁淀川町	高知大学	爽やか音色 郡部に元気 高知大生の楽団活躍 神社や民宿で公演	2012.7.7 朝刊
宿毛市	高知大学	少年とサッカー交流 高知大生 宿毛市で指導	2008.8.16 朝刊
	高知大学	全国準Vのサッカーだ！ 高知大 合宿で少年ら指導 宿毛市	2009.8.21 朝刊
香美市	高知大学	海外の文化学んだよ 香美市の大栃小中 高知大留学生と交流 台湾 小中に昼寝時間／韓国	2012.6.18 朝刊
	高知県立大学	物部の民俗 記録へ 歴民館と県大 連携し調査 暮らしや方言聞き取り	2011.9.28 朝刊

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
香美市	高知工科大学	音楽で地域を元気に！ 高知工科大吹奏楽部 香美市で中高と連携	2010.8.1 朝刊
	高知工科大学	工科大と香美市 図書館蔵書で連携	2012.3.16 朝刊
東洋町	高知女子大学	古民具に興味津々 未整理 110 点 高知女子大生が調査 東洋町	2009.4.21 朝刊
	高知県立大学	地域の文化解明を 県大と歴史館 東洋町で古民具調査	2012.1.22 朝刊
安田町	高知大学	魚梁瀬林鉄は全国級遺構 研究者ら 2 年の調査報告 「日本の土木建築技術結集」 安田町	2008.2.13 朝刊
田野町	高知大学	一足先にクリスマス気分 高知大生が出張授業 田野小児童とリース作り	2008.12.15 朝刊
北川村	高知大学	校庭の木の不思議体感 北川小 3 年生に樹木出前授業 高知大教育研究センター	2010.7.10 朝刊
いの町	高知工科大学	豊年踊りに工科大生参加 いの町小川柳野 800 年続く伝統芸能 あす披露 高齢化受け助っ人に	2010.11.13 朝刊
四万十町	高知大学	高知大留学生ら 19 人 七里小児童と交流 四万十町	2012.8.28 朝刊
三原村	高知女子大学	先人の知恵 後世に残そう 高知女子大生 民具を調査 in 三原村	2010.7.11 朝刊
	高知女子大学	古民具調査で協力態勢 三原村と歴史館 来月協定 「保存のモデルケースに」	2010.11.30 朝刊

4) 健康福祉

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知市	高知大学	高知市土佐山診療所 高知大が指定管理者に 医師確保、人材育成で合致	2008.3.15 朝刊
	高知大学	土佐山診療所 きょうから高知大が運営 国立大法人で全国初	2008.7.1 朝刊
	高知大学	県医療再生計画 高知大に教育研修拠点 医学部 5 人増を要望 医師確保推進部会	2009.9.1 夕刊
	高知大学	土佐山診療所の運営協定を継続 高知市と高知大	2012.3.30 朝刊

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知市	高知女子大学	健康長寿県へ連携強化 高知女子大と医療センター 栄養分野など共同研究	2010.11.18 朝刊
	高知県立大学 高知工科大学	繁華街に繰り出そう 障害者の買い物 学生が支援 高知市	2011.12.5 朝刊
	高知学園短期大学	「食と健康」考える 高知学短フォーラム 高知市	2008.10.11 朝刊
芸西村	高知学園短期大学	高齢者と交流 実情学ぶ 学園短大3学科 芸西で食と健康教室	2008.6.25 朝刊
宿毛市 仁淀川町他	高知大学ほか	へき地医療 特別じゃない 県内で実習 医大生が報告会 医師と患者の近さ実感	2011.8.26 朝刊
土佐市	高知県立大学	土佐市 生活習慣病予防 児童から とさつ子健診開始 県大 分析に協力	2012.12.18 朝刊
香美市	高知工科大学	有用植物で地域活性化 防災、廃校活用も模索 香美市土佐山田町 高知工科大の村井さん 喫茶店経営も	2013.2.1 朝刊
香南市	高知大学	高知大医学部 イルカ療法効果実証へ 未体験者と交流活動 今月中旬から香南市夜須町	2008.8.8 朝刊
馬路村	高知大学	地域を知り、医療考える 馬路村で「家庭医道場」 高知大医学部	2012.5.18 朝刊
	高知大学	合宿の恩返し 馬路で塾やるぞ 夏季限定 講師は高知大医学部生	2012.8.10 朝刊
	高知大学	馬路で臨時学習塾開講 高知大医学部生 宿題や苦手教科指導	2012.8.18 朝刊
	高知大学	『土佐あちこち』馬路の経験	2012.11.8 朝刊
大豊町	高知大学	基石茶でインフル予防！？ 高知大と大豊町が研究 中学生飲用と感染率比較 定期的に飲むと効果？	2012.3.14 夕刊
梶原町	高知大学	目指すはどんな医療者？ 高知大医学部 梶原町で「家庭医道場」	2012.12.7 朝刊
梶原町 馬路村	高知大学	県、高知大 「家庭医」養成へ講座継続 5年間 地域医療向上で協定	2012.3.27 朝刊
	高知大学	『地域で診る 高知で学ぶ研修医たち』(8) 家庭医道場 論ずるより実践せよ	2012.6.5 朝刊
	高知大学	地域医療の在り方は 高知大生座談会 医師の根っこ 高知で学ぶ 現場でもまれ、実践力育む	2013.1.1 朝刊

5) 防災安全

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知市	高知大学	高知大生が防災授業 高知市朝倉中 避難所選びなど指導	2008.11.29 朝刊
	高知大学	学生の身近に「安心」を 高知大生が防災パック 企業協賛も得て商品化	2009.6.25 朝刊
	高知大学	高知大生と県警が横内小で防災授業 高知市	2009.11.7 朝刊
	高知大学	高知大生が防災授業 小中など巡回中	2012.6.21 朝刊
	高知大学 高知女子大学 高知工科大学	大学生が防犯ボランティア 県内4校47人参加 団体結成し活動開始	2010.9.30 朝刊
	高知大学 高知県立大学	子どもの相談相手に 大学生にボランティア委嘱 県警	2011.6.2 朝刊
	高知県立大学	外国人の防災ニーズ探る 県立大学生らが勉強会 高知市	2012.7.2 朝刊
	高知県立大学	薬物 断る勇気を 県大生が小学校で防止教室 高知市	2012.11.30 夕刊
黒潮町	高知大学	高知大生が防災教室 住民と危険箇所確認 黒潮町	2012.10.30 朝刊
	高知大学	「防災意識の継続を」 高知大生 黒潮町で教室	2013.2.16 朝刊
大月町	高知大学	地震対策どうする 柏島で防災講座 大月町	2012.8.30 朝刊

6) 技術工学

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知市	高知工科大学	災害救助に無人飛行機 工科大生が試作実験 物資運搬やカメラ搭載	2008.1.17 朝刊
土佐市	高知工科大学	飛行機はなぜ飛ぶの？ 土佐市の児童 工科大で学ぶ	2009.7.21 朝刊
香南市	高知工科大学	県産EV 完成間近 小型、軽量、太陽光で走行 工科大と地元職人の合作 香南市	2012.11.23 朝刊

7) 建築土木

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
安芸市	高知工科大学	遍路休憩所 斬新に復活 安芸市大山岬 高校、大学生ら建築	2011.11.12 朝刊
香美市	高知工科大学	高知工科大生グループ “仮想の町・山田” 制作 町を歩き 歴史つなぎ 模型化 高知市で展示中	2010.3.19 朝刊
	高知工科大学	工科大生 建設中の香美市庁舎見学 熱心にメモ 圧接工法体験	2010.9.30 朝刊
	高知工科大学	「住宅、店を備えた橋」「祠を囲むドーム状建築」… 斬新模型で地域未来計画 工科大生 高知市で展覧会 土佐山田町舞台 仮想の “楽園”	2011.3.10 朝刊
四万十市 本山町	高知大学	県産材の漁具倉庫完成 震災被害の宮城・名取市 高知大生ら建築	2012.9.26 朝刊

8) 自然環境

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知市	高知大学	服あげ放題 もらい放題！あすまで高知大	2008.5.13 朝刊
	高知大学	高知大生と児童 清掃で交流 高知市	2010.7.4 朝刊
	高知大学	高知大生と児童がゲームやごみ拾い 高知市内で交流	2012.7.2 朝刊
	高知大学 高知女子大学 高知工科大学	1万個ドミノ倒し挑戦 11月開催 県内大学生が実行委 間伐材使い 手作りで準備	2010.9.4 朝刊
須崎市	高知大学	絶滅危惧種も“発見” 須崎市 干潟の生物を観察	2008.5.19 朝刊
香美市	高知大学	三嶺さおりが原 シカ食害 予想以上 1割が枯れる恐れ 高知大生ら 樹種別に詳細調査 香美市	2009.10.3 朝刊
	高知大学	シカ食害の三嶺山系 ヤマヌカボ本格増殖 みんなの会 土壌流出防止へ	2011.11.6 朝刊
	高知大学	三嶺剣山 シカから守れ 香美市でシンポ 食害対策など紹介	2012.1.30 朝刊

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
香美市	高知大学	シカから山の植生守れ 香美市白髪分岐	2011.4.27
	高知工科大学	大学生ら保護柵設置	朝刊
	高知工科大学	高知工科大留学生 物部川沿いを清掃 香美市	2010.6.7
			朝刊
本山町など	高知大学	建築通じ森林学ぶ 嶺北で大学生ら合宿中	2008.8.28
			朝刊
大月町	高知大学	柏島大”で環境学ぼう 高知大が講義 23日から 大月町	2008.8.21
			朝刊

9) その他

地域名	大学名	記事見出し	掲載日
高知市	高知大学	高知大生の社会体験が本に 「学びの意欲にスイッチオン」 製材、農業、都内ベンチャー… 高知市内の出版社発行	2008.5.8
	高知大学	『ミニ情報こうち』 高知大生らが企業研究報告	2010.2.25
	高知大学	就活の不安 乗り越えよう！ ジョブカフェこうち情報誌 「明日、」 高知大生が編集サポート 「自分たちが知りたいことは、ほかの人も知りたい」	2010.4.14
			朝刊
高知市 南国市	高知大学	土電電車内でライブ 高知大生グループ 開業初の企画盛況	2012.2.6
			朝刊
高知市 香美市	高知大学 高知女子大学 高知工科大学	県内大学生 自ら情報発信 高知大 フリーペーパー年4回 女子大にも動き 工科大には新聞部誕生	2009.5.30
			朝刊
安芸市	高知工科大学	ごめん・なはり線 午前6:31 発上り最多 工科大生が乗降数調査	2009.5.24
			朝刊
香美市	高知工科大学	工科大生が講師 初のブログ教室 20日から全9回	2008.8.15
	高知工科大学	工科大生がブログ教えます 香美市で開講 9、20日の参加募集	2009.9.2
			朝刊

4. 事例の抽出

分類	地域づくり	
掲載日	2009年（平成21年）2月19日	
地域	大豊町	
大学	高知大学	
<p>集落の“限界”乗り越えろ 高知大生 泊まり込み調査 大豊町怒田 特産品発掘や焼き畑再現</p> <p>高知大学の学生が長岡郡大豊町怒田（ぬた）地区で、住民の生活や農地の耕作状況などの調査を続けている。十九年から月に一、二回、泊まり込みで現地に入り農業などを体験。同地区は六十五歳以上が60%を超える「限界集落」だが、住民らは「若い人が来てくれれば、地域がにぎやかになってうれしい」と大歓迎だ。</p> <p>▼コメの味比較</p> <p>同大文学部社会経済学科の飯国芳明教授のゼミ生十四人。現在約五十戸、百人が暮らす怒田地区の展望や問題点を探ろうと、生活状況を調査。さらに、「特産品」「焼き畑」「直接支払制度」の三班に分かれて研究を続けてきた。</p> <p>特産品班は、同地区の棚田で自分たちが栽培、収穫したコメを同大の学生や教職員四十五人に食べてもらい、味を調査した。</p> <p>「怒田の棚田米」「高知産コシヒカリ」「岡山産アサヒ米」「新潟県魚沼産コシヒカリ」の四種類を、名前を伏せて比較。その結果、「怒田の棚田米が一番おいしい」と答えた人の割合が36.4%とトップに。住民らは「そこまでの高い評価は予想外」「怒田にも“売れる”物があった」と喜んでいる。</p> <p>焼き畑班は、地区で行われていた焼き畑農業を再現。住民の協力で山林を伐採し、木々を積み重ねて燃やし、大根や白菜などを植えた。収穫した野菜を試食した学生や教職員は、「甘い」「みずみずしい」などと評価が高かった。一方で、「労力がかかり過ぎた。産業として再生するのは難しい」とも分析した。</p>		

直接支払い班は、生産に不利な中山間地域などの農業者に交付金を支給する国の直接支払制度が、地区でどう活用されているか調査。

交付金は二分の一を集落の共同の取り組みに使うことが推奨されているが、怒田地区では共同の取り組みに使われるケースが二分の一を大きく割り込んでいた。学生たちはその原因を「地形的に大型機械の導入が難しい」「家同士が離れているので共同作業ができない」と結論付けた。

▼「息子、娘みたい」

学生らはこのほど、「怒田ふれあい館」で一年間の調査結果の報告会を開催。集まった約四十人の住民は、学生と一緒に地区の長所や課題を探った。

住民からは「コメは実際どれぐらいの値段なら『怒田米』として売れるだろうか」「直接支払いのような補助制度は『不公平』など不満が出やすい」といった質問、意見が相次いだ。

これに対して、学生たちは「調査ではコメを一キ、六百円でも買うという人がいた。無農薬有機栽培にして、高知市の高知オーガニックマーケットで売れば」「直接支払い以外にも国には『農地・水・環境保全向上対策』という交付金もある。検討する価値はあるのでは」と提案もした。

学生とすっかり仲良くなり「もう息子や娘みたいなもん。ずっとおっけてくれたらえい」と上機嫌の住民も。

飯国教授は「学生らはこれで卒業論文が書けると思うが、それだけでなく、怒田の住民、学生双方の財産になるのでは」と話す。

学生と住民が一緒になって“限界”を乗り越える。単なる調査にとどまらない交流が続いている。(嶺北支局・井上太郎)



分類	地域づくり	
掲載日	2009年（平成21年）8月10日	
地域	高知市	
大学	高知大学	

日曜市に高知大生の店

年末まで月1回 地場産品を販売

高知市追手筋の日曜市に9日、高知大生らが営む店がオープンした。若い世代に日曜市をアピールしようと、12月まで月1回出店する。初日は嶺北地方の特産品を販売した。

ETC割引以降、日曜市は県外客らでにぎわっているが、依然、出店者の高齢化や若者の街路市離れなど課題が多い。このため同市が高知大学に提携を求め、石筒覚・同大准教授のゼミで県内の産業構造を学んでいる人文学部2年生が協力。出店経費は国の事業支援費などを活用した。

初日は男女10人が大豊町の碁石茶、同茶を使ったかき氷、本山町のシイタケみそ、土佐町の米粉などをテント下に並べて販売。強い雨に苦戦しながらも、「ゆずジュースおいしいですよ」「碁石茶には乳酸菌がたくさん含まれてます」などと元気に売り込んでいた。

同大2年の中島初史さん（20）は「若者の出店は新しい感じがする。日曜市が盛り上がってくれたら」。

学生らは12月までの残り4回の出店で、南国市、室戸市など県内11市町の特産品を順次販売。来年2月に高知市で開かれる「日曜市元気再生シンポジウム」（仮称）で活動成果を報告する。（上野英由子）

分類	地域づくり	
掲載日	2010年（平成22年）12月12日	
地域	香南市、大豊町、四万十町など	
大学	高知大学	

高知大生が地域貢献活動

地元食材使い鍋 社会奉仕をPR

地域貢献や社会奉仕などに自主的に取り組んでいる高知大学の学生グループが活動の輪をさらに広げようと11日、同大朝倉キャンパスで学生向けのPRイベントを開催。鍋料理を振る舞いながら参加を呼び掛けた。

同大は2008年度から社会経験や人間性を高める学生の活動を積極的に推進。学生らは学部や学年に関係ない任意のグループをつくり、特産品開発や観光案内、清掃奉仕などに取り組んでいる。

この日は12グループが、パネルを用いてそれぞれの活動を発表。香南市の耕作放棄地で育てたレモンを使った加工品販売や、高岡郡四万十町で来春開館する海洋堂ホビー館のPR企画への参加、長岡郡大豊町のしし肉、しか肉を使ったハンバーグ作りなど、構想段階も含めて多彩な取り組みを披露した。

その後、県内産の肉や野菜を使った7種類の鍋を行き交う学生らに提供しながら勧誘。実行委リーダーの人文学部4年、岡田拓也さんは「多くの学生の力で、今後も地域に喜ばれる活動を展開したい」と話していた。（高本浩史）



分類	地域づくり	
掲載日	2011年（平成23年）7月21日	
地域	四万十市	
大学	高知大学	

山里の活性化探る 高知大生が暮らし体験 四万十市西土佐

高知大学の学生らがこのほど、四万十市西土佐江川の中組集落（25戸、約90人）に泊まり込み、地域の暮らしを体験。道づくりや野菜の収穫体験などを通して活性化策を考えた。

市の地域集落再生事業の一環で、昨年から市と同大が連携。特産品作りや地域活性化に取り組んでいる。

今回は中沢純治・同大准教授らが担当する集中講義の受講生ら13人が参加。大師堂に上る坂に丸太やパイプで階段を設けるなど、住民と共に汗を流した。

学生らは「山奥だけどすごくきれいでいいところ。丸太を軽々と運ぶ地域の人たちはすごい」。区長の柴幸夫さん（61）は「体験を通じて地域を知ってもらい、集落が元気になる知恵を若い人に出してもらいたい」と期待していた。

学生らは今後も同集落を訪れ、活性化に関わっていくという。（楠瀬慶太）



分類	地域づくり	
掲載日	2008年（平成20年）1月25日	
地域	安芸市	
大学	高知女子大学	

高知女子大生「援農サークル」結成 安芸市での作業奉仕機に「地域と交流深めたい」

安芸市入河内と畑山で昨年十一月、農作業ボランティア「ゆずとり援農隊」に参加した高知女子大の学生五人がこのほど、「援農サークル」を結成した。メンバーは「安芸市に限らずいろんな地域に出向き、住民との交流を深め社会学の研究にも生かしたい」と張り切っている。（佐藤邦昭）

援農隊は、高齢化などによる農家の労働力不足解消と大学生との交流を目的に、五年前から同市入河内の住民グループ「東川まちとむらの交流を考える会」が実施。同市の農家に泊まり、ユズの収穫や選別を手伝う。昨年は同大生ら約三十人が参加した。

サークルを結成したのは同大社会福祉学部一、二年生の五人。五人はグリーンツーリズムなど農村の社会学を学ぶ講義で援農隊について知った。援農隊に参加後も「もっと多くの人や地域と交流したい」という思いが膨らみ、二年生の宗沢佳奈子さん（20）と浜田朱里さん（20）を中心にサークルを結成した。

南国市内でこのほど開かれたイベント「高知の食文化を味わう」で、安芸市の入河内大根が取り上げられた際も早速、ボランティアで調理や配膳（はいぜん）、物品販売を手伝った。

会場には援農隊で宗沢さんと浜田さんを受け入れた農家の有沢満子さん（62）もおり、「学生さんの温かな気持ちが何よりうれしい」と喜んでた。サークルメンバーは「農村の高齢化や介護など、地域社会の課題について興味がある。分析や解決に取り組みたい」「知らない土地にどんどん出向いて、いろんな農作業を体験したい」などと意欲を燃やしている。

分類	地域づくり	
掲載日	2012年（平成24年）10月25日	
地域	香美市	
大学	高知県立大学	

県大生 地域活性化に汗

香美市の平山地区 石窯製作、運動会も“復活” 住民と交流 成長実感

高知県立大学の学生が、香美市土佐山田町平山地区の地域活動に積極的に加わり、住民と活性化を進めている。今年は住民の要望を受け石窯を作ったほか、11月には途絶えていた運動会の“復活”も計画。住民との交流を通して学生は成長を実感している。（飯野浩和）

活動に参加しているのは同大地域文化論ゼミ（清原泰治教授）の15人。旧平山小学校を整備した地域交流施設「ほっと平山」で2010年夏、研究室合宿を行ったのをきっかけに取り組みが始まった。学生がJRで通えるなど地理的条件もあって活動が本格化。10年には地域歩きマップを作り、翌年は地域を回り、ふすま張りや農作業を手伝うなど協力してきた。

今年は公民館活動に参加して伝統料理を学び、敬老会で出し物を披露。今月上旬には「ほっと平山」に石窯2基を製作した。

学生は費用を賄うため、昨年から県内外の助成制度に申請。「こうちNPO地域社会づくりファンド」から約60万円の助成金を受け、業者や地元住民とピザなどが焼ける石窯を完成させた。

さらに、2005年度に閉校した同校の運動会“復活”も計画。11月3日の開催に向け、住民らと種目などを話し合い、住民にチラシを配った。

住民は「諦めていた石窯や運動会も、学生の前向きな姿勢で動きだした」「変化を促してくれ、地域が明るくなった」と学生の協力を歓迎。当初から同地区に通うゼミ長の和田尚子さん（22）も「いつも温かく迎えてくれる平山の皆さんに、実践力とコミュニケーション力を育んでもらった」と感謝する。

活動を見守ってきた清原教授は「地域のニーズを把握し、助成金を得る。そんな夢みtainな話も実現させた。住民のおかげで学生が成長した」と目を細めている。

分類	地域づくり	
掲載日	2011年（平成23年）1月25日	
地域	安芸市	
大学	県立高知短期女子大学	

丸々!!入河内大根 安芸市で高知短大生ら 180本喜びの収穫

安芸市入河内（にゅうがうち）地区の地場産業や文化を学ぶ高知短期大学のサークル「入河内・丸ごとキャンパス」が29日、同地区で開かれ、短大生ら15人が入河内大根の収穫。30日に高知市の日曜市で販売した。

同サークルは2年前から同地区を訪問。地元住民でつくる「町と村の交流を考える会」のメンバーの畑約1畝を借り、通常の大根より数倍大きい入河内大根の栽培に挑戦していた。今回の収穫は昨年9月に種まきし、学生や地元住民が草引きなどの作業に汗を流してきた。

減農薬栽培で育てた入河内大根は最大7*₀という破格の大きさに成長しており、短大生らは「これは上等の大根!!」とびっくり。地元住民の指導に従い、スコップを使って約180本を次々と掘り起こした。

短大生らは大根の土を洗い流した後、形が整って1本丸ごと販売できる大根と、曲がるなどしたためカットして販売する大根に選別。一部の大根は同短大の学生食堂や、高知市と東京都内の飲食店計6店舗に納め、残りを高知市の日曜市で販売した。収益の一部は地元住民に何らかの形で還元する予定。（安岡仁司）

分類	地域づくり	
掲載日	2010年（平成22年）1月29日	
地域	香美市	
大学	高知工科大学	

地元野菜を食べて 生産者と工科大生 料理などで交流 香美市

地域の野菜をもっと食べてもらおうと、JA土佐香美女性部がこのほど、香美市土佐山田町の高知工科大生ら20人と特産野菜の料理を作るなど交流を深めた。

同大は、「地域共生概論」の授業で地域住民らを講師に迎え、物部川流域の環境や産業などを学んでいる。今回は課外演習として、協力を呼び掛けた。

まず、同JA職員が町内のシシトウやデコポンなどのハウスを案内。生産者が天敵栽培や重油高騰に対する工夫などを説明し、地元の野菜が手に入る直販所も訪れた。

その後、同JA土佐山田支所で、ニラ揚げギョーザやヤッコネギの肉巻きなど特産野菜を使った7品を一緒に料理。春菊を生で食べる韓国風サラダは特に好評で、学生は「鍋でしか食べなかった。くせがなくて簡単」と驚いていた。

食後に食生活や農家の高齢化、後継者不足などについて意見交換。同大大学院修士1年の渡聡史さんは「近くに住んでいるのに、農業の現状がこれほど厳しいとは知らなかった。自分の研究につなげたい」と意欲を見せていた。（野村圭）



分類	地域づくり	
掲載日	2012年（平成24年）11月15日	
地域	香美市	
大学	高知工科大学	

山田の日曜市に若い力 工科大生がイベント企画

18日 にぎわい創出目指す 香美市

出店者の高齢化が進む香美市土佐山田町の日曜市を活気づけようと、高知工科大学の学生有志が18日午前10時～午後3時、同市土佐山田町宝町1丁目の日曜市会場でイベントを企画。同大の学生サークルがステージを行い、若い力でにぎわい創出を目指す。（飯野浩和）

イベントを企画したのは、同大環境理工学群3年、宮川結衣さん（22）ら。日曜市を運営する「土佐山田日曜市平成組合」の都築勝利理事長（68）が、日曜市でアルバイトしていた宮川さんに活性化策を相談したのがきっかけという。

同組合によると、日曜市は1960年代後半に始まり、20年ほど前のピーク時には約130店が出店。しかし、スーパーなどが増えるに従い店が激減。昨年から今年にかけても、病気などを理由に10店ほどが店を畳み、現在は45店になっている。

1年生時から働いていた宮川さんも、店主の高齢化などを心配していたことから、大学で地域おこしを学ぶ同級生の面迫智美さん（21）らに相談。面迫さんが所属する吹奏楽部の演奏のほか、よさこいやアカペラ、演劇、ジャグリングなどを披露することになった。

これまでに日曜市の買い物客にチラシを配り、市内小中学校や市商工会などを通じて市内に告知。宮川さんは「日曜市の良さは、多くの人と交流できるところ。イベントを機に学生や若者に日曜市を知ってもらい、残していきたい」と意気込んでいる。

分類	地域づくり	
掲載日	2013年（平成25年）2月10日	
地域	香美市	
大学	高知工科大学	

工科大生に元気もらった

香美市の高齢者ら 交流の卒業生に感謝状

香美市香北町西川甲の佐敷集落で8日、定期的に地域住民と交流していた高知工科大学の学生が卒業するのに合わせ、住民主催のお別れ会が開かれた。学生とのイベントや食事を毎回心待ちにし、楽しんだ住民は「たくさんの元気をもらいました」との感謝状を贈呈。学生は「社会に出ても、人とのつながりを大事にしたい」と名残を惜しんだ。（島本正人）

佐敷は30戸足らずの集落。一人暮らしの高齢者が増えたため、「住民が集う機会を増やそう」と、約10年前から会食やレクリエーションを楽しむ「豊友会」を組織している。

一方、工科大マネジメント学部4年の大山喜市さん（22）＝姫路市出身＝らは、授業で学ぶ地域活性化を実践するため「中山間集落へ入りたい」と模索。県の地域支援企画員が同会を紹介した。

昨年6月以降、ほぼ月1回のペースで学生が数人ずつ、集落を訪問。佐敷公民館を会場に、七夕などの行事や昼食準備といった共同作業を通じて交流を深めた。

同会の恒石久子さん（76）は「いつもにこにこ、笑顔で接してくれて皆、大喜び。孫みたいに思えてねえ」。腕を振るった赤飯やようかんを土産に持たせたり、学生に会うためデイスービス行きを取りやめる人も出た。

お別れ会には高齢者17人が参加。全員で折り紙や思い出の写真を飾った記念ボードを制作したほか、大山さんら学生2人に感謝状、交流の様子を取めたDVDを贈った。

大山さんは「地域活性化は『まず経済的支援を』と考えがち。でも人と人の結びつきや、感謝の気持ちも地域を元気にするんだ、と実感しました」。工科大と佐敷集落の交流は、後輩らが引き継ぐ予定という。

分類	商工観光	
掲載日	2009年（平成21年）2月25日	
地域	高知市	
大学	高知大学	

コンビニ用 メニュー考案 高知大生弁当が人気
彩り鮮やか 地元食材豊富

高知大学の女子学生がメニューを考えた弁当が四国四県のコンビニエンスストアで販売されている。仁井田米のかつお飯にゆず皮を添えるなど、地産地消を前面に出すとともに、女性消費者を意識した味と盛りつけで売り上げも好調という。

弁当は「9（く）ろしお弁当」のネーミングで、「サークルKサンクス」の店舗で販売中。同大学の受田浩之副学長と同社の食材担当者が商談会で知り合ったのがきっかけで、同大学と同社が契約を交わし、昨夏から共同開発を進めてきた。

メニュー作りは食品化学などを学ぶ三回生の四人が担当。ターゲットを自分たちと同世代の女性に絞り、見た目の鮮やかさを重視。インターネットなどで県内の食材を探し、九つに仕切った容器に窪川ポークや土佐天など、高知の食材を盛り込んだ。

四人は当初は「色とりどりのパフェのような筒状の弁当に」と考えたが、背の高い容器は規格外で輸送面でも不便、とコンビニ担当者から指摘されて断念。自分たちが普段昼食に掛ける金額を念頭に、おかずの量や材料を何度も変更してコストを抑え、価格にも配慮した。

学生たちは「理想と現実をすり合わせるのが大変だった」「想像以上に多くの人の手がかかっていた」などと感想。「貴重な体験を将来の仕事に生かしたい」と話していた。

サークルKサンクスの担当者によると「地元の物を食べたいというニーズに合っている。現在取り扱っている弁当の中でトップの販売個数」という。

《高知大生が考案したメニュー》

ナスのたたき風ポン酢あえ、かつお飯ゆず添え、かつお入り煮物、仁井田米にしそのふりかけとしらす、豆腐ハンバーグと窪川ポークのしょうが焼き、仁井田米にしらすと枝豆添え、土佐天と卵焼き（かつお風味たれ）、かつお飯、しょうが使用のさっぱり仕上げ大学芋

分類	商工観光	
掲載日	2013年（平成25年）1月28日	
地域	南国市、宿毛市	
大学	高知大学	

さっぱり味 生臭さもなし 高知大「ユズブリ」研究 大手すしチェーン商品化

高知大学農学部（南国市物部）のグループが、ユズ果汁を搾った後の皮を使ってユズの香りがするブリを研究し、「生臭さがない」などの成果を得ている。昨年は試験的に生産した5千匹を大手回転ずしチェーン店が全国で販売。新たな高知ブランドとして、また廃棄物削減にもつながるとして期待が高まっている。（豊永梨恵）

手掛けたのは、水産利用学研究室の森岡克司教授と水族栄養学研究室の深田陽久准教授らの研究グループ。研究を始めた8年前、魚の切り身の劣化を防ぐ研究が県外の企業で行われており、バナナの皮などで成果が出ていた。そんな中、森岡教授らは高知らしいものを作ろうとユズに着目。ポリフェノールやビタミンCなどの抗酸化成分を含んでおり、「切り身の酸化を防ぐことができるのでは」と考えた。基礎研究を踏まえた上で2011年、すくも湾漁協（宿毛市片島）とクロシオ水産（幡多郡大月町泊浦）の協力を得て、養殖ブリにユズ果皮入りの餌を与える現場試験をスタート。通常は廃棄されるユズの皮をペースト状にして餌に混ぜ、ブリ出荷前の9～10月の間に定期的に与えた。その結果、脂質の酸化に伴って発生するアルデヒド類など、生臭さの元になる数十の成分が、いずれもユズ皮入りの餌を与えたブリの方が低いとのデータを得た。さらに、リモネンなどユズの香り成分も検出された。また、大学関係者や学生に試食してもらい、色や生臭さなどの6項目をそれぞれ5段階評価してもらったところ、かんきつの香りやおいしさ、総合評価の項目でユズブリの方が高かった。「生臭さを感じない」という感想も多かった。県内外の量販店などに試供品として提供する中で、大手回転ずしチェーンの「くら寿司」（大阪府堺市）が興味を示した。同社は「魚の生臭さが苦手な人にも抵抗なく食べてもらえるものはないか」と探していたといい、広報宣伝部の辻明宏マネージャーは「ユズブリを会社で試食したところ、魚を食べ慣れていない人に好評で、面白いと思った」。昨年11月、宿毛湾のいけすで飼育していた5千匹を全て買い上げ、同16日から22日までの期間中に「土佐ゆずぶり」として全国300店舗で販売した。

期間中は普通の寒ブリの2倍程度売れ、客からも「さっぱりしておいしい」「普段ブリを食べないけどこれなら食べられる」と好評だったという。辻さんは「今後も季節商品として継続して取り扱いたい。安定した量を提供してもらえらるなら、メニューに載せることも考えたい」と話している。商品化のめどが付き、研究グループは「13年度からは取り組んでくれる業者に引き継ぎたい」としている。森岡教授は「養殖魚に付加価値を付け商品化を目指す。県内養殖業の活性化につながれば」と話している。

分類	商工観光	
掲載日	2013年（平成25年）2月20日	
地域	高知市	
大学	高知大学	

児童 カツオ食品デザイン 朝倉第二小（高知市）の5年生 高知大と連携授業

朝倉第二小学校（高知市若草南町）の5年生が作ったポスターとシールが、高知市の海産物製造販売会社「中央物産」の商品「カツオジャーキー」のデザインに採用された。高知大の地域の産業や環境を学ぶ教育プログラムの一環で、大学と小学校の連携が実を結んだ。

子どもたちは、身近な食材であるカツオを通して海洋環境などを学んだ後、カツオジャーキーがより親しまれる商品になるためのデザインを考案。高知大でデザインを学ぶ学生も加わりシールとポスターを作り上げた。

商品のパッケージに貼るシールは山本瑛介君（11）のデザイン。カツオジャーキーを餌に、巨大なカツオを釣り上げる漁師の姿をユニークに描いた。デザインをアレンジした高知大生が「授業で学んだことを他の誰よりもたくさん書いていた」と山本君のアイデアを採用したという。

商品は19日から、高知龍馬空港（南国市）の売店や同社の直営店「たたき工房」（高知市介良甲）で販売されている。（笹島康仁）

分類	商工観光	
掲載日	2008年（平成20年）10月29日	
地域	土佐市	
大学	高知女子大学	

女子大 土佐市と協定 商品開発やエコバッグ 地域振興へ連携

高知女子大学と土佐市は二十八日、地域振興やエコバッグ作りなどに連携して取り組む協定を締結した。同大はこれまでに県内の民間企業や県社会福祉協議会などと協定を結んでいるが、自治体とは初めて。

「家庭からの省エネ」に取り組もうと同市が、エコバッグの素材選びやデザインなどを同大に依頼。都市圏で人気の高い「池一菜果園」（土佐市蓮池）のトマトジュースの商品開発についても相談を持ち掛けたのがきっかけで、協定を結ぶことになった。

エコバッグは、同大の生活科学部生活デザイン学科の教員の助言を受け、試作品を製作中。同市は年明けには市民に無料で配布したいという。

トマトジュースについては高齢者や成人、小学生に毎日飲んでもらい、免疫力向上や生活習慣病改善にどんな効果があるかを大学側が調べ、より付加価値の高いジュースづくりに生かす。

高知市永国寺町の同大永国寺キャンパスで協定書に調印した山根洋右学長は「土佐市が健康長寿日本一を目指す本県のモデルとなるよう全力を尽くしたい」と話し、板原啓文市長も「エコバッグをはじめとする産官学連携を進めるとともに医療や福祉、健康づくりなどについてもアドバイスをもらいたい」と述べた。（上野英由子）



分類	商工観光	
掲載日	2009年(平成21年)12月25日	
地域	高知市	
大学	高知女子大学	

街に新しい風吹かせよう 高知女子大生が洋服店 おびさんロード沿い オリジナル150着販売

高知女子大学の学生たちが24日、高知市帯屋町1丁目のビル2階に洋服店をオープンさせた。自分たちでデザイン、製作した服やアクセサリ、リメイクした古着などを低価格で販売する。「不景気といわれるが、お金を掛けずにファッションを楽しんでほしい。高知の街に新しい風を吹かせたい」と意気込んでいる。(上野美由子)

生活科学部生活デザイン学科3年の村岡夏姫さん(21)ら9人がおびさんロード沿いの「アルカビル」に開いた「style pony majiLL TЯUNK」。約15坪の店内には小物や個性的なデザインのワンピース、シャツ、パンツなど約150着を並べる。ほとんどが自分たちで布を買い付け、デザインし、ミシンや編み物で制作したオリジナル商品。店には交代で立つ。

きっかけは今年9月、ビルのオーナー、真鍋良朗さん(39)からの出店の誘い。家賃ではなく売り上げの一定割合を納める方式で安く貸してもらった。「すごくうれしくて。ぜひやりたいと思った」と学生たち。低額資金でも起業できる企業組合制度を活用し、1人が3万円出すなどして資本金28万円で組合を設立。店名は、英語で女の子を意味する「j i l l」と「交じる」を掛け、「洋服がいろいろ詰まったトランクから、女の子にお気に入りの一着を選んでほしい」との思いを込めた。

学生たちが目指すファッションは、お金を掛けずに知恵を絞り、個性的なファッションを楽しむ人を指す米国の造語「リセッションニスタ」。店は大学生など10代後半から20代の女性がターゲットで、最多価格帯は千円台。オーナー所有の在庫の古着やそのリメイク品も陳列する。この日は、オープンと同時に若い女性が来店。学生たちは「このトップスには青っぽいパンツが合うと思います」などと売り込んでいた。村岡さんらは「就職活動をしながらなので大変だけど頑張りたい。自分たちで店を運営することで、将来の選択肢が増えれば」と話している。

営業日は火・木(午後2～6時)、土・日・祝日(午前11時半～午後7時半)。年内は31日まで営業。25日は午後2時から営業する。

分類	商工観光	
掲載日	2011年（平成23年）3月28日	
地域	高知市	
大学	高知女子大学	

中心街見守って10年

エスコーターズ 記念冊子を配布 高知市

高知市の中心商店街で、観光客の案内や街の清掃活動などを行っている高知女子大学生のグループ「エスコーターズ」が27日、結成10周年記念に製作した小冊子を持って各商店街を回り、活動を見守ってくれている店主らに配布した。

エスコーターズは、市や商工会議所などと高知女子大が連携し、中心商店街を活性化する目的で2001年に結成。現在は9人のメンバーがいる。

小冊子は「エスコーターズ 10周年のあゆみ」（A4判、16頁）で、同会議所などが800部制作。日ごろの活動のほか、02年の絵本出版、03年の龍馬賞受賞などを振り返り、OG27人からのメッセージも添えられている。

この日は、部長の2年生、矢野梓さん（20）ら3人が「先輩たちの思いが詰まった冊子。私たちが頑張ります」などと笑顔で各店に小冊子を配り、京町・新京橋商店街振興組合理事長の安藤浩二さん（63）は「結成当初から見守ってきたので、冊子は彼女らの成長の証しのようにとてもうれしい。これからも支え合っていきたい」と喜んでいった。（富尾和方）

分類	商工観光	
掲載日	2011年（平成23年）10月7日	
地域	高知県内（高知市、津野町）	
大学	高知女子大学	

土佐茶ブランド化第3弾 県大生 ほうじ茶商品化 津野町産茶葉使用 近く発売「うま味残り力強さ」

土佐茶の商品づくりに取り組んでいる高知県立大学（県大）の学生が、高岡郡津野町産の茶葉を使ったほうじ茶の新商品を近く発売する。好評を得た煎茶の2商品「茶楽々（ちゃらら）」「CHARARA」に続く第3弾で、ほうじ茶は初めて。学生は「うま味が残り、力強さを感じられるお茶」と自信を見せている。（八田大輔）

県大では2009年度から、土佐茶の研究をしている生活科学部の井本正人教授と学生らが県やJA全農こうちと連携。「若者の間や家族のだんらんには飲める土佐茶」を目指し、商品開発を進めている。

昨年9月に完成した第1弾の煎茶の袋入り商品「茶楽々」は1600袋を完売。今年8月には、しゃれたデザインの缶入り煎茶「CHARARA」を千個発売したところ、約2週間でほぼ売り切れる人気商品となり、今年の「土佐のいい物・おいしい物発見コンクール」（県主催）でも入賞した。

第3弾は、3年生23人が「二番茶も使えるので農家の所得確保につながる」として、ほうじ茶を企画。試飲などの結果、津野町産の使用を決めた。

学生は同町を訪れ、生産の歴史や地元での飲み方を調べたほか、高知市五台山のJA全農こうちの施設で、ほうじる温度や時間を変えながら試飲。土佐茶独特の香りとうま味を生かすため、「ほうじ方が少し弱め」の茶葉に決定した。

新商品は「CHARARA ほうじ茶」として375袋を発売予定。既に高知大丸の歳暮用ギフトに組み込まれることが決定しているという。また、8、9両日に高知市のひろめ市場で開かれる同コンクールの表彰式を兼ねた展示販売会で一部を先行発売する。

分類	商工観光	
掲載日	2013年（平成25年）1月15日	
地域	北川村	
大学	高知県立大学	

北川村観光 県大生が提案

女子旅／家族旅／大人の修学旅行 村採用 春にも商品化

昨年から安芸郡北川村と連携し、新たな観光資源や魅力の発掘に取り組んでいる高知県立大学（県大）の学生がこのほど、同村の旅行プランをまとめた。森林浴や魚梁瀬森林鉄道の散策などを巡る「女子旅」「家族旅」「大人の修学旅行」の3案を提案。村は提案を生かして旅行会社とツアー商品を作り、春にも売り出したい考えだ。（浜崎達朗）

この連携事業は、若い観光客の誘致を目指す村が、「若者のアイデアを貸してほしい」と県大に協力を要請。昨年6月から本格的に始まった。

文化学部2～4年生の女子学生約20人が村を数回訪れ、中岡慎太郎館や「モネの庭」などを見学。住民からユズ栽培の歴史なども学び、アイデアを練ってきた。

その結果、いずれも1泊2日の3案をまとめ、村に提案書を提出。村面積の約95%を占める山での森林浴や、村内を流れる奈半利川でのキャンプ、国の重要文化財に指定されている森林鉄道遺構の散策、田舎ずし作りなどを盛り込んだ。

学生は提案書で「原点に立ち返って、自然の美しさ、懐かしさ、温かさをアピールしよう」「住民と触れ合うことで、村の魅力を知ってもらうことができる」などとポイントも指摘している。

村は「何度も足を運んでもらい、住民とも交流してもらった上での提案。女性ならではの視点もあった」と早速、活用を決定。高知市内の旅行会社との協議に入っている。

村と県大は2013年度も引き続き連携を図る考えで、学生の受け入れを担当する村観光協会も「自由な考えで、一層多くのアイデアを出してもらいたい」と期待している。

分類	商工観光	
掲載日	2012年（平成24年）2月29日	
地域	室戸市	
大学	高知大学、高知県立大学、高知工科大学	

ひなまつり 大学生が新風 室戸市吉良川町
町並みの魅力発信 あすから スタンプラリーも企画

3月1～4日に室戸市吉良川町で開かれる「吉良川町並みひなまつり」に、高知大学、県立大学、高知工科大学の学生グループが初めてスタッフとして参加している。歴史の町に若者パワーの「新風」を吹き込もうと、特産のサツマイモを使ったパフェの販売やスタンプラリーなどを企画。「若い力と新しい視点で、町の魅力をどんどん発信したい」と張り切っている。（真崎裕史）

まつりは1998年から毎年開催。同町の国の重要伝統的建造物群保存地区を舞台に、古民家などに明治や大正期のひな人形を飾るほか、お茶などの接待がある。今年は約80軒に人形が並ぶ。

室戸ジオパーク推進協議会の専門員が住民組織と仲介。地域活性化に取り組む大学生グループ「Sun-fes（サンフェス）」（小笠原佐知代表15人）が加わった。

学生は、地区内をくまなく回ってもらうスタンプラリーを企画し、景品として土佐備長炭を使った「ミニひな人形セット」を千人分準備した。

期間中は古民家を借り受け、特産のサツマイモ「西山金時」を使ったオリジナルパフェを1日70食限定で販売。また、あやとりやかるたなど昔遊びのコーナーも設ける。

吉良川町並み保存会の青木準吉会長（65）は「人手不足も解消されるし、大学生の発想でまつりを活性化してもらいたい」と歓迎。今回の企画をまとめる県立大文化学部2年、依田礁子さん（20）は「すてきな町並みやお芋のおいしさなど、吉良川の良さを知ってもらう機会になれば」と意気込んでいる。

室戸市吉良川町のほか、安芸市、安芸郡奈半利町、田野町、安田町、北川村の6市町村で3月1～4日、「土佐の町家雛（ひな）まつり」が行われる。

分類	教育文化	
掲載日	2012年(平成24年)7月7日	
地域	四万十市、いの町、仁淀川町	
大学	高知大学	

爽やか音色 郡部に元気 高知大生の楽団活躍 神社や民宿で公演

高知大学教育学部の音楽専攻の学生6人が「新鮮果実音楽団フルーティー」を結成し、県内の郡部の神社や民宿でコンサートを開いている。歌謡曲やクラシックを中心に演奏し、若さと爽やかさあふれる音色が中山間地域に活気を与えている。(楠瀬慶太)

6人はいずれも同学部の芸術文化コース音楽専攻の2年生。楽器はサクソフーンやトランペット、ホルン、フルートなど。

今年3月、昨年先輩学生と高知市内の老人ホームなどで訪問演奏を続けてきた中野杏香(ももか)さん(19)らが、「音楽に触れる機会が少ない郡部の人にも演奏を聞いてほしい」と同級生にグループ結成を呼び掛けた。

グループ名は「若々しくみずみずしいフルーツ」をイメージして命名。4月からは授業後などに集まり、練習を重ねてきた。

県内の集落で大学生のインターンシップ事業を行うNPO法人「人と地域の研究所」(高知市)が公演場所を設定するなど活動に協力。5月末に吾川郡仁淀川町の安居溪谷の民宿で初めて演奏会を開いた。

住民ら約20人を前に「少年時代」「千の風になって」など十数曲を披露。「本当に良かった」「また来てほしい」と好評だったという。6月末には同郡いの町の椋本神社でも演奏し会場を沸かせた。

音楽団は今後も郡部を中心に演奏会を開く予定で、中野さんは「音楽で地域の人たちに笑顔と元気を届けたい」と意気込んでいる。

*あす西土佐で演奏会

「フルーティー」は8日午後1時半から、四万十市西土佐口屋内の口屋内小学校(休校中)で演奏会を開く。15曲を披露。無料。問い合わせは、人と地域の研究所へ。

分類	教育文化	
掲載日	2009年（平成21年）4月21日	
地域	東洋町	
大学	高知女子大学	

古民具に興味津々 未整理 110点

高知女子大生が調査 東洋町

高知女子大学文化学部の一回生ら約百人が十九日、安芸郡東洋町河内のふれあい館「なごみ」に保存されている古い民具を調査した。

同町教育委員会などによると、二十数年前から甲浦、野根の地域グループがそれぞれ江戸時代末期から昭和までの古い民具を収集しており、数年前に「なごみ」に集約。以来、未整理のまま保存されていた。

こうした状態を同学部の佐藤恵里教授が知り、調査が実現。県立歴史民俗資料館と同町教委の協力を得て、同学部の必修科目である「文化学入門文化基礎実習」の一環として実施した。

今回は保存されている三百点以上のうち、生活関連の民具を中心に約百十点を調査。一般的なざるやおけから、駕籠（かご）、「竜吐水（りゅうどすい）」と呼ばれる木製の火消し道具まであり、学生は「昔の人の知恵はすごい」「まだ使えるものも多い」と、興味津々の表情で掃除や寸法測定、写真撮影などに取り組んでいた。

水谷洋一・同学部長は「民具は過去の人間が作り上げ、手あかがついて実感がこもっている。それを引き継いで文明がある。文化を学ぶ際のベースを、学生に実感してもらいたい」としており、継続的な調査も検討するという。（三浦真裕）

分類	教育文化	
掲載日	2009年（平成21年）6月3日	
地域	高知市	
大学	高知女子大学	

「養護教諭への一歩に」 高知女子大生が読み聞かせ 高知市三里小

高知女子大学看護学部の学生らが、高知市仁井田の三里小学校で絵本の読み聞かせを続けている。学生の大半は養護教諭の免許取得を目指しており、地域の子どもの触れ合いを通して感性を磨こうと、毎月1、2回訪れては人形劇などもしている。

読み聞かせは、養護教諭になるための一歩にと、同市池にある同学部が周辺の小学校に呼び掛け2年前にスタート。現在、同校の保護者らがつくる読み聞かせボランティア「お話し隊」に加わる形で10人ほどが実施している。

2日には、3人の同大3年生が1、2年生の教室に登場。大型絵本の読み聞かせが始まると、子どもたちは笑ったり、指をさしたり、夢中になって聞き入っていた。同大の谷圭織さん（20）は「毎回、思いがけない反応があって楽しい。これからもずっと続けていきたい。自分が親になった時にも読み聞かせができる母親になりたい」と話していた。（南飛鳥）



分類	教育文化	
掲載日	2010年（平成22年）11月13日	
地域	いの町	
大学	高知工科大学	

豊年踊りに工科大生参加

いの町小川柳野 800年続く伝統芸能 あす披露 高齢化受け助っ人に

助っ人は大学生一。吾川郡いの町小川柳野に約800年前から伝わる豊年踊り。しかし、近年は高齢化などで踊り手が減ってきている。そこで、地元住民が香美市の高知工科大に声を掛け、14日に同町の「ぐりーんぱーくほどの」で開かれるイベントで同大生と踊りを披露することになった。学生らは初めての経験に戸惑いながらも、必死に振り付けを覚えている。（難波亮太）

柳野の豊年踊りは、壇ノ浦の戦いに敗れ落ち延びた安徳天皇を慰めるために始まったとされる。地元神社の秋祭りで奉納されていたが、踊り手の高齢化などで一時中止に。1997年に24年ぶりに復活して以降、祭りや敬老会などで踊られてきた。地元の「明るい柳野を作る会」（松本和美会長）が中心となり、小学生に教えるなど継承にも努めている。

とはいえ、地区の高齢化、少子化に歯止めはかからず、若い踊り手は減る一方。「このまま伝統を絶やしてはいけない」と、同大で講義をした経験がある同町の「国友商事」の国友昭香社長を通じ、学生に依頼した。

同大マネジメント学部2回生の10人で、「A c t y（アクティ）」ということし設立されたばかりのイベントサークルに所属するメンバー。サークル代表の西村芽（めぐ）さんは「こういう踊りがあるのは知らなかった」そうだが、快諾。14日に同パークで開かれる「ほのほの王国もみじまつり」で披露するため、地域のお年寄りと一緒に練習することになった。

柳野公民館で行われている練習では地元住民が「足は右、左、右。回ってちょん」などと手取り足取り指導。ぎこちないながらも必死についていく学生たち。だんだん踊れるようになると「先輩、から「そうそう。さすが若いき覚えがえい」と声が飛び、狭い室内に笑い声が響く。

本番まで3回合同練習をする予定だが、1回目で学生は振り付けをほとんどマスターする上達ぶり。これには松本会長らも「感心した。わたしたちも元気がもらえた。これが次へ次へとつながっていけば」とにっこり。サークル副代表の西森梓さんは「地域の人と交流できてすごく楽しい。こういう伝統はなくしちゃいけないと思うので、これから何らかの形でみんなに呼び掛けていきたい」と話している。

分類	健康福祉	
掲載日	2008年（平成20年）7月1日	
地域	高知市	
大学	高知大学	

**土佐山診療所 きょうから高知大が運営
国立大法人で全国初 高知市**

高知市の土佐山へき地診療所（同市土佐山）が一日から、指定管理者の高知大学に運営委託される。指定期間は平成二十四年三月末までで、市と高知大は三十日、同制度による運営協定を交わした。公立医療機関の指定管理者に国立大学法人がなるのは全国初という。

医師不足が深刻化する中、同診療所の運営を維持したい市と、地域医療に通じた人材育成を目指す高知大が昨年十一月から協議。市議会六月定例会で指定議案が可決された。

高知大によると、委託後は現在の松下雅英同診療所長と同大医学部教授が交代で勤務。診療日や診療時間、患者送迎バス運行などは現行のまま維持する。

指定管理料は四半期ごとに支払われ、平成二十年度は約四千二百万円を予定。国立大学法人は収益事業を受託できないため、年度末に経費に過不足が生じないように調整して精算する。

同市役所での協定締結式で、岡崎誠也市長は「中山間の医師確保が課題になる中、安定した運営体制を取ることができた」と話し、高知大の相良祐輔学長も「地域の大学にとって、県民の安全、安心を守ることは重要であり、重大な責任を感じる」と述べた。（古川昇平）



分類	健康福祉	
掲載日	2012年（平成24年）12月18日	
地域	土佐市	
大学	高知県立大学	

土佐市 生活習慣病予防 児童から とさっ子健診開始 県大 分析に協力

土佐市は2012年度から、小学生対象の生活習慣病予防健診「とさっ子健診」をスタートさせ、このほど初めて健診を実施した。小学5、6年生の希望者の血圧や血液などを検査し、生活習慣病の危険度などを調べる。子どもたちから健康意識を高め、より良い生活習慣を身につけることで、将来的な健康維持に結び付けたい考えだ。（五十嵐隆浩）

同市は、特定健診導入前の「基本健診」の受診率（2007年度で11%）が長年低迷。特定健診が始まった08年以降は向上したが、11年度も33.4%にとどまっている。慢性腎臓病などの人工透析患者数も多く、人口1万人当たりの県平均27.3人に比べ、同市は36.6人に上る。市は生活習慣が定着する10代から健診を受ける機会をつくることで健康意識を高めて生活習慣を改善し、将来的な生活習慣病を予防するための啓発活動を重視。「とさっ子健診」に乗り出した。

健診は腹囲などの計測のほか、尿や血液を検査し、腎臓や肝臓の機能や糖尿病や動脈硬化などの危険度を調査。朝食や運動の有無、間食の頻度などを聞く問診も。高知県立大学が健診数値と問診を基にした生活習慣との関連などを分析。後日、結果を説明する。同市保健福祉センターでの初めての健診は児童72人が参加。健診や保護者とともに問診を受けたほか、県大生からお菓子のカロリー数値を教わるなど交流も楽しんだ。

市は14年度から中学2年生の実施も計画。同市健康福祉課は「健診を健康的な生活を考えてもらうきっかけにしたい」としている。

分類	健康福祉	
掲載日	2008年（平成20年）8月8日	
地域	香南市	
大学	高知大学	

高知大医学部 イルカ療法効果実証へ

未体験者と交流活動 今月中旬から香南市夜須町

室戸市の室戸岬新港のイルカ飼育施設「室戸ドルフィンセンター」でイルカセラピーの研究をしている高知大学医学部は、自閉症の子どもへのイルカ介在療法の効果を実証するため、今月中旬から香南市夜須町で、まだ同療法を受けていない子どもと学生らとの交流活動を行う。参加してくれる児童生徒を募集している。

同大は平成十八年夏から、自閉症の子どもを対象に、イルカに触ったり一緒に泳ぐなどのプログラムを体験してもらい、その後の行動やコミュニケーション能力への影響を研究。同大の加藤邦夫教授によると「人見知りが少なくなるなど対人関係が改善した。保護者も、楽しそうな子どもたちを見て、病気に対する見方などが変わり、ストレスが少なくなった」などの効果が得られたという。

そうした効果をより明確に立証し、イルカ療法を普及させていくため、同市のヤ・シィパークで、同療法を受けた経験のない子どもと大学生らがバーベキューや海水浴などをして実施前、一カ月後、半年後の計三回、心理検査を行うという。

対象は自閉症の診断を受け、十六、十七日▽二十、二十一日▽二十三、二十四日▽二十七、二十八日のいずれかに参加可能な小中学生。同大医学部附属病院からヤ・シィパークまで送迎し半年後の検査終了後、同センターでドルフィンスイムを体験してもらおう。

申し込み、問い合わせは同大医学部神経精神科学教室イルカセラピー事務局(088・880・2359)。(上野英由子)

分類	健康福祉	
掲載日	2012年（平成24年）5月18日	
地域	馬路村	
大学	高知大学	

地域を知り、医療を考える

馬路村で「家庭医道場」高知大医学部

地域を知り、地域医療を考える高知大学医学部の勉強合宿「家庭医道場 2012 in ごっくん馬路村」が12、13日、安芸郡馬路村で行われた。医学科と看護科の学生40人が村内を歩き、住民と語り合い、医療従事者として目指す道を探った。

同学部家庭医療学講座（阿波谷敏英教授）の主催。07年から同村や高岡郡梶原町で実施しており、11回目。

学生たちは初日、住民の案内で村内を「探検」。ユズ畑や農協施設の見学、田植え体験、デイサービス訪問などを通して、村の暮らしや住民同士の関係性の近さなどを肌で感じた。

2日目は保健福祉、産業、若者、医療、子育てをテーマに村代表の6人が講演した。

馬路村診療所の白田裕貴所長は、独居老人や老老介護など高齢化率が37%を超える村の課題を挙げ、「村の医療は診療所だけでは完結しない。村外の病院や行政との連携が不可欠」と説明。「医師として必要とされていることにやりがいを感じている。診療所の外の人たちと交流できるのも地域医療の魅力」と語った。

その後、グループに分かれて懇談。田舎の暮らしを初めて見聞きした学生たちが「地域で医療を行うには、地域を好きになることや、地域の人に近い存在になることが大切だと感じた」と発言。地域医療に携わる医師らが「患者の生活を知り、話に耳を傾ける姿勢を持った医師になって」と助言していた。

7回目の参加で、実行委員として企画にも携わってきた医学科4年の川田しお梨さん（21）は「地域の人々との交流を通して、医師とは単に病気を治すだけでなく、人を診る仕事だと学んできた。将来自分がどんな医師を目指すのか、今後も参加を続け、考えを深めていきたい」と話していた。（門田朋三）

分類	健康福祉	
掲載日	2012年（平成24年）8月10日	
地域	馬路村	
大学	高知大学	

合宿の恩返し 馬路で塾やるぞ

夏季限定 講師は高知大医学部生

学習塾がない安芸郡馬路村に17日から、臨時の塾が開設される。先生役は高知大学医学部の学生で、今年5月に同村で行われた地域医療を学ぶ合宿が縁。24日までの8日間だが、学生は村に泊まり込んでマンツーマンに近い形で小中高生を指導。「夏休みの宿題から進路の悩みまで、何でも気軽に相談して」と準備を進めている。（浜崎達朗）

村によると、同村には以前から学習塾がなく、塾での勉強を望む子どもは車で1時間以上かけて安芸市などに通っている。

5月に同学部が地域医療を考える学生向けの勉強合宿を同村で開催。学生は地元住民と交流する中で塾がないことを知り、「お世話になった恩返しをしたい」「夏休みに家庭教師を」と子どもたちの指導を提案した。

村も全面協力。医師や看護師を目指す学生が教えることから「半熟たまご塾 in 馬路村」と銘打ち、学生の宿泊用の空き家やバンガローを用意した。

塾は17～20日が馬路地区で、21～24日は魚梁瀬地区でそれぞれ実施。受講料は1日当たり500円。

村によると、村内の小中高生は計100人ほど。現在、受講申し込みは10人足らずだが、村は今後次第に増えるとみている。一方の学生側は医学科と看護学科の約20人。村の祭りなどにも参加する。

学生側の代表で医学科2年の高野友花さん（20）＝高知市大津乙＝は「地域の実情を知りたい機会。私たちも楽しみ」と張り切っている。

分類	健康福祉	
掲載日	2012年（平成24年）12月7日	
地域	梶原町	
大学	高知大学	

目指すはどんな医療者？

高知大医学部 梶原町で「家庭医道場」

地域に入り、医療を考える高知大学医学部の勉強合宿「家庭医道場 2012 in ゆすはら」が1、2日、高岡郡梶原町の梶原病院などで行われた。学生たちは架空の症例を基に、診断や退院に向けたケアカンファレンスを体験。「どんな医療従事者になりたいか」を熱く語り合った。

同学部家庭医療学講座（阿波谷敏英教授）の主催。07年から同町や安芸郡馬路村などで実施しており、12回目。医学科と看護学科28人のほか、同町の医師や看護師、保健師ら9人が参加した。

初日は、学生の寸劇による症例検証を行った。「町内に住む75歳の独居男性がめまいとおう吐を訴え、同病院に救急搬送された」という設定。男性役の学生が演技する症状などから、疾患が何なのかを考えた。

続いて、「男性は小脳梗塞と脳幹梗塞で体に障害が残った。回復は見込めないが、『自宅に帰りたい』と希望している」という設定で、模擬ケアカンファレンスを行った。

医師、看護師、保健師、理学療法士、ケアマネジャー役に分かれて課題を探ったが、「家族関係がうまくいかず、介護をする人がいない」「玄関に手すりを付けたいのに、了承してくれない」など、退院を阻む難問が続出。患者の思いや生活を理解し、最善の道を探る難しさとやりがいを実感していた。

2日目は症例検証を通して感じたことを踏まえて議論。目標とする医療者像について、「患者の生活観を大切にできる医師」「医療技術と人間性を磨く」「『医者』としてじゃなく、『人』として関わる」などと語り合った。

1年生の男子学生は「道場を通し、医師は大学の授業で得られる知識だけでは通用しないんだと実感した。学生時代にいろんな経験を積んでおきたい」と話していた。（門田朋三）

分類	健康福祉	
掲載日	2008年（平成20年）6月25日	
地域	芸西村	
大学	高知学園短期大学	

高齢者と交流 実情学ぶ

学園短大3学科 芸西で食と健康教室

高知市旭天神町の高知学園短期大学がこのほど、安芸郡芸西村西分甲の介護予防拠点施設「ほっとハウス」で「食と健康教室」を開催。地元住民約二十人が料理教室などで学生と交流を深めた。同短大が十八年度から取り組む「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の一環。学生が地域に出向き、高齢者について総合的な知識を深めてもらおうという狙い。

生活科学、医療衛生、歯科衛生の三学科から約二十人が参加。学生が超音波断層法（エコー）で頸（けい）動脈を検査し、高知大医学部附属病院の浅羽宏一医師がそのデータを基に動脈硬化の進行具合などを調べた。また、学生が地場産品を使って作った料理も振る舞い、「検査の結果はどうでしたか」「何も問題なかったよ」などと笑顔で話していた。（安岡仁司）



分類	防災安全	
掲載日	2009年（平成21年）11月7日	
地域	高知市	
大学	高知大学	

高知大生と県警が横内小で防災授業 高知市

南海地震に備え、子どもたちに防災意識を高めてもらおうと6日、高知大生と県警機動隊員らが高知市の横内小学校を訪れ、6年生約100人を対象に出前授業を行った。

同校は以前から防災学習に取り組んでおり、今回は高知大学生有志でつくる「防災助っ人隊」に講師を依頼。この授業を知った県警も協力し、機動隊員を参加させた。

「学校が避難所になった時に、何か使える道具がないか校内を探検しよう」との学生たちの呼び掛けに、子どもたちは3班に分かれて探索。

学生たちが「物差しは骨折した人の添え木になる」「運動場に線を引く石灰は、水を掛けると温かくなってカイロの代わりになる」と説明すると、感心した様子で話に聞き入っていた。グラウンドでは、災害救助で出動するレスキュー車も登場し、子どもたちの関心を誘っていた。

（浜崎達朗）



分類	防災安全	
掲載日	2010年（平成22年）9月30日	
地域	高知市	
大学	高知大学、高知女子大学、高知学園短期大学、高知工科大学	

大学生が防犯ボランティア

県内4校47人参加 団体結成し活動開始

防犯ボランティアの高齢化に歯止めをかけようと、県内の4大学の学生が防犯ボランティア団体「YCPK」を結成し、29日に高知市の県警本部で開始式を行った。県警によると、県内では嶺北高校や高知大学の学生が防犯ボランティアをつくっているが、複数の学校が協力して団体を設立したのは初めて。

子どもの見守りや防犯パトロールなどを行う防犯ボランティアは8月末現在、県内に232団体あり、約8900人が参加している。しかし、平均年齢60代以上の団体が約7割を占め、20代以下はこれまで2団体しかなく、全国的にもメンバーの高齢化と固定化が進んでいるという。

今回結成した「YCPK」は「Young Crime Prevention in Kochi」の略で「若者の防犯ボランティア」という意味。高知女子大学、高知学園短期大学、高知大学、高知工科大学の学生計47人が参加した。

開始式では代表の高知女子大学3年、小松成美さん（21）が「若者ならではの視点で子どもの見守り活動や自主防犯活動を行いたい」とあいさつ。その後、高知市の追手前小学校周辺で下校中の生徒や通行人にひったくりなどの被害防止を呼び掛けるチラシを配布。さっそく活動に取り組んだ。

「YCPK」は今後も小学生の登下校の見守りや防犯パトロールを行っていくという。（坂巻陽平）

分類	防災安全	
掲載日	2012年（平成24年）7月2日	
地域	高知市	
大学	高知県立大学	

外国人の防災ニーズ探る 県立大学生らが勉強会 高知市

「助けを呼ぶ時、日本語で何と云えばいいのか？」一。南海地震などの災害発生時に外国人を支援しようと、高知県立大が6月30日に開いた勉強会で、県内在住の外国人から不安や要望が次々と飛び出した。

県内には昨年末時点で3485人の外国人が居住。3分の1以上の約1200人が留学生や技能実習生ら短期間の滞在者で、語学力が十分でなかったり本県の地震の危険性、地理を知らなかったりする例が多い。

高知市の県大永国寺キャンパスで開かれた勉強会には、ベトナムや中国など九つの国・地域の留学生と社会人15人が参加。県大の国際交流委員会の教職員や学生らが、応答役として出席した。

勉強会では、地震の知識や南海地震が起きた場合、どんなことに困りそうかなどを話し合い。「ここから近い避難場所はどこか」「『避難所』とは何をしてくれる場所なのか」といった質問のほか、「南米の内陸部ではほとんど地震がない。何に困るかさえ見当がつかない」という困惑の声も出された。

会場では、市の中消防署の救急隊員から骨折した時の固定法や毛布を使って人を運ぶ方法、自動体外式除細動器（AED）の使い方などの指導も受けた。

国際交流委員長を務める長沢紀美子・社会福祉学部教授は「学生の防災意識の向上にもつながる。今回分かったニーズを基に、今後も勉強会や訓練を継続していく」と話している。（大山泰志）

分類	防災安全	
掲載日	2013年（平成25年）2月16日	
地域	黒潮町	
大学	高知大学	

「防災意識の継続を」 高知大生 黒潮町で教室

高知大学人文学部の学生らが幡多郡黒潮町で14日、昨秋に続いて防災教室を開き、前回の防災教室で行った住民アンケートの結果を示し、「南海地震を正しく恐れて、防災を持続的な活動にしてほしい」と訴えた。

同学部社会経済学科の鈴木啓之教授のゼミ生は、昨年10月、同町上川口の浦集落で地域の防災課題を探る教室を開催。教室の前後で防災意識の変化を探ろうとアンケートを行っていた。

この日、浦地区集会場で開かれた教室には住民ら約30人が参加。学生側の中心メンバーの松尾美佳さん（22）が同地区で想定される地震災害を問う設問をテーマに、教室前には津波への意識が強かったが、教室後は地震の揺れに関する記述が増えたことを紹介した。

前回、倒壊の危険性が指摘された集落のブロック塀について酒井公順（まさのり）区長は「地域で話し合い、改修する方向」と報告。松尾さんは「もともと住民同士のつながりが強い地域。地震、津波から全員の命を守るために協力して課題を解決してほしい」と継続的な活動を期待していた。（新田祐也）



分類	技術工学	
掲載日	2012年（平成24年）11月23日	
地域	香南市	
大学	高知工科大学	

県産EV 完成間近

小型、軽量、太陽光で走行 工科大と地元職人の合作

県内の大学教授と学生、技術者のチームによって、電気自動車（EV）の開発が進んでいる。燃料を買わなくても走る車の動力源は、高知に降り注ぐ太陽の光。車庫の屋根に設置した太陽光パネルから生まれる電気を使い、小型EVを走らせようという挑戦だ。大手自動車メーカーで車体設計を手掛けていた技術者が県内に大学教授として赴任してきたことから、その開発はスタートした。（竹内一）

高知工科大学の大塚幸男教授（63）は、2006年から高知工科大で自動車工学などを講義している。京都大学工学研究科を修了し、トヨタ自動車に1974年に入社。マサチューセッツ工科大学客員研究員を経て、高知へやってきた。

自動車を学ぶのに、最も良い方法は何か。それは自分たちで造ってみることだ。

大塚教授は研究室の学生とスポーツカーを製作することにした。2010年、超軽量スポーツカーを目指したガソリンエンジン車を完成。その翌年には、動力源をリチウムイオンバッテリーとモーターに置き換えたEVを完成させた。

そうした積み重ねの上で、今年春から超軽量・小型の2人乗りEVに取り組んでいる。

軽く、小さいことで省電力を実現させる。車庫の屋根に設置した1枚の太陽光パネルが発電するエネルギーを使い、さっそうと走行する一。それがプロジェクトの目標だ。

モーターとバッテリーは、トヨタ車体の小型EV「コムス」に搭載されているものを使うが、車のフレームやボディーはオリジナルのものを設計、製作する。

工科大学内の研究室では、学生たちがパソコンに向かって設計作業を続けていた。設計はすでに最終段階。自動車設計生産システム研究室に所属する13人の学生たちは、来年1、2月の完成を目指し、忙しさを倍増させている。

学生たちが駆使するのは「CAD（キャド）」と呼ばれるシステム。コンピューターの画面上で立体的に車体フレームなどの部品を設計する作業に、CADは欠かせない。強度を試す衝突実験もパソコン上で可能だ。

「それは、もう、楽しいです。だけど車を造るためにはIT（情報技術）の知識が必要で、苦労しています」と学生の一人は話す。

強度と軽量化が求められる車体フレーム、優れたデザインと機能性を兼ね備えた外観ボディー、モーターとバッテリーを制御するシステム…。そうしたパーツの綿密な設計と制御を最適に統合した上で、車は世に送り出される。

大塚教授の専門は車体設計だ。「僕がそれほど詳しくない部分も、学生たちが担ってくれているんですよ」と話す。

大学院1年、秋田憲昭さんは「乗員の安全を考えると、車体フレームの設計はシビアになります。気の済むまで衝突実験をして、しっかりとした車にしたい」と意気込む。

「軽量で強度を確保した足回りで、コムの乗り心地を上回るものにしたい」（4年、天野亮さん）、「EVの走行可能距離を少しでも伸ばすには、軽量化と空気抵抗の削減が必要。空気抵抗はプリウスを上回る性能にしたい」（4年、石田好卓さん）。目標時期が近づき、学生たちも気合が入っている。

大塚教授と学生たちが設計したものを実際に作る職人たちもいる。

浜田直明さん（62）＝香南市野市町＝は、繊維強化プラスチック（FRP）によるボディーを製作する。カーレースが趣味で、車体改造を長らく手掛けてきた手腕を買われた。

「大塚先生からFRPで車を造ってくれと言われて、何度も断ってきたんですが、とうとう引き受けてしまった。いろんな無理な注文をされたけど、やると言ったから仕方ないわね」

レーシングカーが置かれた浜田さんのガレージでは、大塚教授がデザインしたボディーの製作が進んでいる。イラストや設計図を基にウレタンフォーム製の型枠を手作りで製作し、そこにFRPを流し込んでボディーを完成させる。

一方、車体フレームは香南市吉川町の鉄工所、西山製作所が手掛ける運びだ。

空気抵抗の少ない優れたデザイン。徹底した軽量化で可能になる省電力。車庫の屋根に据えた太陽光パネル、それが生み出す電力で走る一。目標はそれだけではない。走行可能距離100km、そして50万円という販売価格も目指す頂にある。

大塚教授、学生、職人による3者合作の「県産EV」のお目見えまで、あと2～3カ月だ。

分類	建築土木	
掲載日	2011年（平成23年）3月10日	
地域	香美市	
大学	高知工科大学	

**「住宅、店を備えた橋」「祠を囲むドーム状建築」… 斬新模型で地域未来計画
工科大生 高知市で展覧会 土佐山田町舞台 仮想の“楽園”**

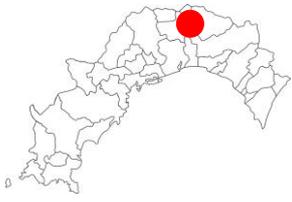
高知工科大で建築を学ぶ学生らが、香美市土佐山田町を舞台に仮想の地域未来計画を作った展覧会「山田式零壺零『楽園 神母ノ木山田島』」が、高知市本町1丁目のギャラリーファウストで開かれている。住宅を備えた橋など、斬新な発想の建築模型が目を行っている。14日まで。（大野由紀夫）

制作したのは学生グループ「高知工科大学 Field Design Studio」の約30人。神母ノ木と山田島地区の、丘の上の異界へ通じるような風景や、自宅に祠（ほくら）があるような暮らしぶりにひかれたという。未来計画は、そんな風景の“楽園”としての魅力を、建築を加えることで増幅しようというものだ。

6点の作品の一つ「磐座祠付温泉集会所（かみのそばによりそいつどうばしょ）」は、祠を囲むドーム状の建築。不明瞭になってきている「人の場所」と「聖なる場所」の境をつくるのが狙い。屋根が土で覆われ、地面につながっているのが特徴だ。また「香我美酔楽連続住橋（はしにすんだりのんだりおおさわぎ）」は、橋の両側に住宅や店がいくつもくつついたもの。渡るだけの橋から住める橋へ。工科大近辺の居酒屋不足も解消しようという楽しいものだ。ほかにも、廃屋の上に建物を建てるなど、ユニーク作品ばかり。いずれも、薄れがちな伝統的精神性や地域のきずなの再生を目指しており、学生たちの熱意が伝わってくる。

4年生の豊嶋盛さん（22）は「この計画に取り組むことで、大学周辺の身近な所にも、とても面白いものがあるのが見えてきました。みんなでいろいろ考えるのが楽しかったです」と話していた。また、指導した渡辺菊真准教授（39）（本紙に「この場所この地球あの建築」を連載中）は「今回学生たちは、身近な神秘的とも言える場所で暮らすことについて、真摯（しんし）に考えています。そんな点を見てもらえれば」と話している。

11日午後4時からは、同会場（喫茶ファウスト3F）で、渡辺准教授、新居照和さんら建築家による座談会「仮想地域構想の展開力」が開かれる。

分類	自然環境	
掲載日	2008年（平成20年）8月28日	
地域	本山町	
大学	高知大学	

建築通じ森林学ぶ 嶺北で大学生ら合宿中

木造建築に興味を持つ大学生、社会人による「森の未来に会う旅」が、長岡郡本山町などで二十八日まで六泊七日の日程で行われている。全国から集まった十六人が同町の汗見川ふれあいの郷清流館に宿泊。間伐体験や専門家との交流などを通じ、木材の特性や流通などを学んでいる。

高知大生や嶺北木材協同組合、県建築設計監理協会が昨年から、インターネットなどで参加者を募集。首都圏や近畿地方などの五大学から八人と社会人三人、高知工業高の五人が参加した。

間伐や搬出などの作業体験のほか、専門家の講義、実習も行われている。二十六日には清流館で大工、左官を招き、柱の接合部分の加工や壁にしっくいを塗る作業を見学、体験した。

こたで伸ばしたしっくいを壁に塗ろうとして床に落としたり、凹凸のできた壁を直そうとして余計にひどくなったりと悪戦苦闘。左官がきれいに塗り上げると「プロはすごい」と歓声が上がった。

兵庫県立大二年の前田恵輔さん（20）は「森林荒廃の問題から建築の技術まで、ためになる話ばかり」と満足そうだった。（井上太郎）。



分類	自然環境	
掲載日	2011年（平成23年）3月10日	
地域	香美市	
大学	高知大学	

三嶺さおりが原 シカ食害 予想以上 1割が枯れる恐れ 高知大生ら 樹種別に詳細調査 香美市

「三嶺の森をまもるみんなの会」に所属する高知大学のグループが、香美市物部町の三嶺のさおりが原で9月に行ったニホンジカの樹種別被害調査結果をまとめた。約70種類1178本のうち、幹の約24%、根株の約29%に食害があることなどが分かった。予想以上に深刻な状況で、同会は「これまで樹種別の詳細な調査はなかっただけに今後の対策の指針になる」としている。（野村圭）

さおりが原（1170㍊）は、三嶺の中腹にある比較的平たんな場所。樹齢100年を超す巨木が多く、2000年に全国の国有林の中から次世代に残すべき財産として「森の巨人たち百選」に選ばれたトチノキやイヌザクラもある。しかし、一面のササが枯れるなど、06年ごろからシカの食害が目立つようになってきた。

調査は、元同大教員の西村武二さんが助言し、学生や卒業生ら13人が参加して9月13、21日に実施。樹木の種類、直径、幹と根株の被害の程度、枝葉の茂り方などを一本ずつ調べた。

調査結果によると、アサガラ72本は約92%に当たる66本に根株被害があり、幹の全周をはがれたものが27本と特に目立った。また、ミズキ65本は根株のみの被害が約90%の59本。シデ類、ミズナラ、ブナには被害がなかった。

1178本中約1割の114本が幹の全周をはがれており、「近いうちに枯れてしまう可能性が高い」と西村さん。また、約29%の344本の根株に被害が見られた。

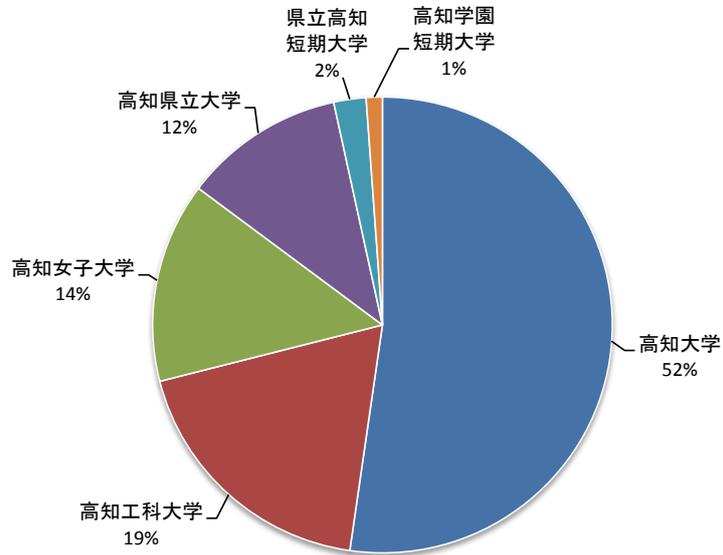
同大農学部森林科学科4年の山田真由美さんは、「樹種によって被害の程度と部位に違いが見られた」と分析。シカの食べる樹種が変わり、これまで食べないと思っていたカエデ類にも被害があることなど、新たな発見も多かった。

西村さんは「ケヤキやトチノキなど、さおりが原の代表的な巨木の若木にも被害があった。長期的に見ると、巨木の後継ぎがいなくなり、さおりが原の構成樹種が変わる恐れもある」と懸念していた。

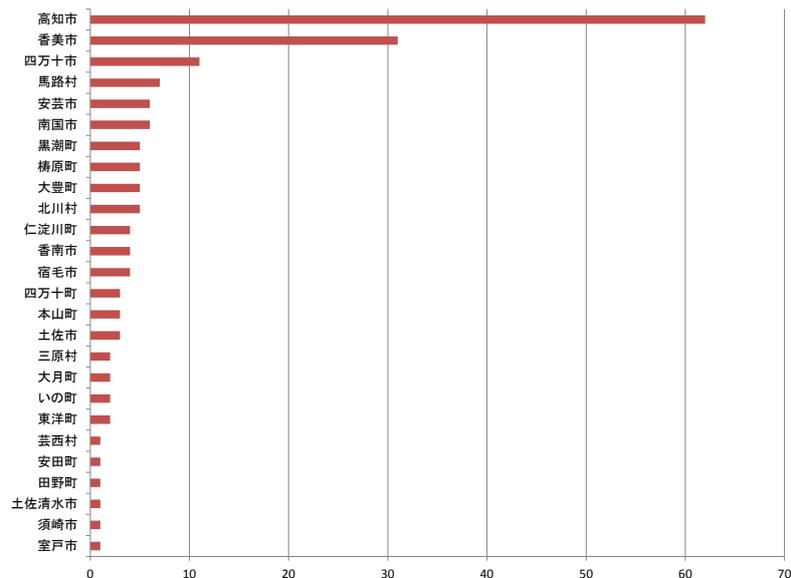
5. まとめ

- ・高知新聞の記事をもとに、学校別に地域支援事業実施件数の構成比をみると、高知大学が最も多く 52%であった（関連記事を含む記事掲載の総数で算出）。高知大学では、地域づくり、商工観光、防災安全等で人文学部が、教育文化等で教育学部が、健康福祉等で医学部が、商工観光や自然環境等で農学部が、地域支援事業に取り組んでいる。
- ・高知県立大学は、高知女子大学の時代を含めると、合計で実施件数の 26%となる。地域づくり、商工観光、教育文化、健康福祉、防災安全等の分野で地域支援事業に取り組んでおり、女子学生の視点等を活かした実績が記事で複数回紹介されていた。
- ・高知工科大学（実施件数の 19%）は、技術工学や建築土木等の分野で、次世代に視点を置いた地域支援事業に取り組んでいる。また、地域マネジメント等の分野において、地域づくり等に関する地域支援事業の事例も紹介されている。
- ・上記のほかに、県立高知短期大学と高知学園短期大学の地域支援事業も、高知新聞記事に掲載されており、地域づくりや健康福祉等の分野で、地域との交流を図りながら実績を残している。
- ・大学による地域支援事業が実施された自治体は 26 市町村にのぼり、高知県全域の約 76.5%を占める。実施件数が最も多かった自治体は高知市で、実施総数の 35%を占める。次いで香美市が実施総数の 17%を占め、高知市と香美市が実施件数の過半数を占めている。
- ・高知新聞の記事によると、中山間地区における地域支援事業では、少子高齢化が進む地区での地域活性化や地域医療等に関する取り組みが多く掲載されており、それらの地域に県内の大学等に在籍する若い学生が足を運び、地域資源の活用や住民との交流等を通して、学生たちに元気をもたらした（地域の活力の再生）等の記事を多く目にした。

■学校別にみた地域支援事業件数の構成比（関連記事を含む記事掲載の総数で算出）



■大学が地域支援事業に関わった市町村と実施件数（複数回答あり、土佐茶PJは高知市に含む）



依光晃一郎県政報告会バックナンバー

- 高知県大学生の地域活用調査報告書
- 移住ニーズアンケート調査報告書
- 24年度 9月定例会（本紙）
- 23年度 2月定例会予算委員会
- 楽しく防災をめざした防災拠点づくりに関するアンケート報告書
- 23年度 6月定例会
- 香美市人口の推移

依光晃一郎後援会HPよりダウンロードできます。

<http://yorimitsu.gr.jp/hokoku/>

複写・複製は可能です。積極的にご利用ください。

依光晃一郎後援会

〒782-0051 高知県香美市土佐山田町楠目446-2

TEL 0887-52-9222 FAX 0887-53-2074

URL <http://yorimitsu.gr.jp/>

E-mail info@yorimitsu.gr.jp